

## 平成29年度 第2回函館市福祉政策推進会議 会議概要

### ■日 時

平成30年2月2日（金） 午後6時25分～7時26分

### ■場 所

函館市役所 8階第2会議室

### ■協議事項

- 1 第4次函館市地域福祉計画策定のための意識調査について

### ■会議資料

- 1 第3次函館市地域福祉計画の概要
- 2 社会福祉法の改正と地域福祉計画
- 3 平成30年度 地域福祉計画策定に関わる調査票配布予定（案）
- 4 平成30年度 地域福祉計画策定に関わる意識調査（案）
- 5 意識調査（案）についての意見（当日配布）

### ■出席委員（6名 ※欠席委員なし）

池田委員，大橋委員，齋藤委員，相馬委員，野村委員，山田委員

### ■事務局職員

- ・保健福祉部 藤田部長，佐藤次長  
地域福祉課 和久井課長，伊藤主査，藤井主任主事

### ■傍 聴

なし

### ■報 道

2社（函館新聞社，北海道新聞社）

### ■会議要旨

- 1 開会
- 2 協議事項
- 3 その他

**事務局（伊藤主査）**

定刻より早いですが、委員の皆様がお集りなので、ただ今から平成29年度第2回函館市福祉政策推進会議を開催する。はじめに、藤田保健福祉部長からご挨拶を申し上げます。

— 藤田保健福祉部長 挨拶 —

**事務局（伊藤主査）**

本日は、事前に大橋委員より協議事項に関する資料を預かっているので、皆様の机上に配布させていただいている。では、池田座長、これからの進行をよろしくお願ひしたい。

**池田座長**

それでは早速、会議次第に従って進めていきたい。終了時間は8時頃を目途にしたいと思うのでご協力をお願いします。

協議事項「第4次函館市地域福祉計画策定のための意識調査について」ということで、事務局から説明をお願いします。

**事務局（和久井課長）**

それでは、着席のまま説明させていただく。配布の資料について一通り説明させてもらう。

— 資料の説明 —

**池田座長**

それでは、大橋委員から先に説明してもらいこれらのことについて一つ一つやっていく方法でいいか。

**大橋委員**

— 資料の説明 —

**池田座長**

ありがとうございました。

今、市役所の方と大橋委員からアンケートのたたき台が出たがこれらについて、齋藤委員何かあるか。

**齋藤委員**

作っていくときに、大橋委員の指摘した地域福祉計画策定ガイドラインの中の1番から16番の部分を計画策定のときにも盛り込まなければならないだろうし、アンケート調査にもある程度反映させていった方がいいのではないか。

### 事務局（和久井課長）

我々も実際に策定委員会を立ち上げてから協議してもらおう予定なので、中々この場で判断というのは難しい。今日は幅広くご意見をいただき整理したうえで策定委員会に引き継ぐ予定としている。

### 齋藤委員

ということであれば、大橋委員もご指摘のとおり、ボランティアや地域活動を尋ねる内容のものとしては充実しているが、これだけのものが国から降ろされてきているという点から見るともう少し幅広く聞く質問項目がなければならないのではないかと。

### 池田座長

1番から16番までガイドラインとして出てきているから、これをある程度中身に取り込んでいかなければならないのかなと感じている。野村委員はどうか。

### 野村委員

大橋委員の資料を見て感動した。ここまで具体的な提案をされたのは凄いと思う。齋藤委員の意見のように、ベースになる事務局案の地域活動に関することをきちんと聞くことは一番だが、まさに制度の谷間にある部分について、大橋委員の資料の2枚目以降で言われているような関連する部分について、計画との整合性もあると思うがこのような部分については何かの形で取り上げていければいいと思う。

今回、非常に幅広い分野の中からの配布予定一覧をいただき大変な作業だと思う。例えば、アンケート調査の対象に中学生や大学生などが入っているが、同じ質問を色んな方に出して、データを比較検討することは非常に大事なことだと思うが、中学生や道外から来ている大学生も結構いるので大学生が地域活動を全面的に出したこのアンケートを見て、どこまで自分のこととして関心を持って答えてくれるのか若干の危惧がある。

もちろん、このような項目について中学生や大学生の考えを調べることも大事だが、中学生や大学生ならではの視点に絞ってそのような人がどのように地域のことを考えているか、もう少しボリュームの少ない子どもや大学生が答えやすい別立てのアンケートを考えるのも一つの考えだと感じた。

### 池田座長

前回の時は中学生や高校生にアンケートは取ってないのか。

### 事務局（和久井課長）

前はそこまではしていない。前は福祉関係者に配布していたが、今回は幅広く一般市民の方や学生へ広げようと思っている。

### 池田座長

野村委員の言う事はもっともだと思う。山田委員はどうか。

### 山田委員

配布資料3を見て、広く一般市民に広めるということで、広くと言っても健康な人を含めるのか、何かしらの障がいやそこに関わりのある人に限定するのか、そこがはっきりしないと思った。また、高齢者に多く聞くので高齢者の意見が反映しやすいと思った。

広く一般市民というと、例えば子育て世代のお母さん方は何百人もいるので、その方々に対してのアンケートというのが無いようなので敢えて外したのかどうかというところを感じた。

もう少し配布先に、どの辺まで広めるのかということのを再考してもいいと思った。

### 池田座長

もう少しアンケート内容に絞っていきたいがいいか。配布先の検討はその後でもいいと思う。

アンケートの内容は大橋委員からも市からも出ているが、これらの内容を精査していく必要があると思う。

### 山田委員

マークシートで答えるのか。

### 事務局（和久井課長）

基本的に選択方式で○をつける。

### 山田委員

集計はどのようにするのか。

### 事務局（和久井課長）

手入力で行う予定でいる。

### 山田委員

それは大変だと思う。

### 池田座長

基本的なことがあるが、例えば年齢・性別とか、まず属性があってそれから具体的な内容に入っていく流れになっている。

### 事務局（和久井課長）

調査票の配布先、資料3になるが、10圏域の中から年齢分けをして無作為抽出するというところで、60歳以上の方、中学生、大学生で約1,400人予定している。

### 池田座長

属性から入って行ってアンケートの内容に入っていくがそれはガイドラインに沿ってやっていく形になるのか。そのような流れのアンケートになるのか。

#### 事務局（和久井課長）

策定委員会で議論してもらったためのベースとなるものとして今日はお願しているが、先ほどご説明させていただいたが、これまで地域のまちづくりに関わっている方々から幅広く意見をいただきたいということ、これまで福祉関係者など特定の方の意見を聞いていたが、今後関わってもらわなければならない市民や若い方の意見を聞きたいということで今回このような選定をしている。しかし、これは事務局案ということなので先ほど説明したとおり、今日いただいた意見を踏まえてもう少し対象を見直すことなども精査していきたい。

#### 池田座長

齋藤委員。

#### 齋藤委員

この場では、対象の範囲にこのような人を入れた方がいいのではないか、質問項目は内容を意識したものを整理、統合するなど修正をした方がいいのではないかという議論をして後は託すという考え方でいいか。

#### 池田座長

そのような感じに持っていきたい。

#### 事務局（和久井課長）

今日いただいたご意見は、事務局として整理して取り込めるものは形にして示していきたいと思うし、そうではない部分は、いただいた意見として策定委員会に示したいと思っている。

#### 池田座長

市から出てきたたたき台と大橋委員から出てきたたたき台の良いところは取りながら、ガイドラインに沿いながらやっていく。そういう形に持って行ってよりよい幅広いアンケートにできれば良いと思う。この場はそういう形でいいか。大橋委員、何かあれば。

#### 大橋委員

函館市から出てきたボランティアや助け合いというところが、結構最近は介護予防や高齢者の福祉の方に取込まれアンケートがされている。「函館市介護予防・日常圏域ニーズ調査」では、生きがい・ボランティア・近所の助け合いなどが入ってきているので、それと同じことをするよりは新しい項目が入ってきているのでそのようなことをする方がよいと思った。

#### 池田座長

ガイドラインも視野に入れながら、新しいことも取り入れながらのアンケートになっていくと思う。相馬委員、何かありますか。

## 相馬委員

大橋委員の資料がすごくわかりやすい。このように簡単というか、あんまり長いと見ているうちに「えっ」となってしまうので簡潔にした方がわかりやすいと思っていた。回収率30%，あんまりたくさん質問があるとこのような回収率になってしまうのではないかと。大橋委員くらいの内容で回収しやすい方向でやってもらえれば良いと考えていた。

## 野村委員

私も相馬委員の意見になるほどと思った。確かにこのアンケートはよくできているし、一定のデータで集約できると非常に貴重なものだと思う。ただ、無作為抽出でやるということは、色々な人にいくと思うが、「このような制度を知っていますか。」みたいなものであれば○はつけても、具体的に地域活動に参加をした場合どうかということに踏み込んだ内容が入っていると、町内会の役員など地域に関わっている人であれば答えてくれると思うが、そうではない人には読んでもらえないのではないかとという危惧がある。一般の方に対して無作為抽出で行うアンケートについては、どこまで踏み込むのか、政策や取り組みの認知度を知るレベルの調査にして、具体的な取り組みに踏み込んだ内容については、関係機関や団体を通じて具体的な取り組みについてアンケートするなど二段構えの内容で整理しても良いと思う。これを全市民に一斉にやるには意欲的なアンケートではあるが無理があるのではないかと心配している。

## 齋藤委員

内容に対して一つと対象について一つだが、大橋委員の提案のように、少し前のデータを含めて、内容が他のところで詳しく聞かれているものは省いて、現状のアンケートで新たに聞かなくても良しとするのが妥当なのかというのが一つ、書き手にとって負担はないし整理する方も手間がかからないのでお互いに良いと思うがそれが可能なのか。

もう一つ対象として函館市の高齢化率、障がいを持っている方の率、子どもの率を意識した率を組み立てるべきなのか、それぞれが似たような数という意味でそろえた方が良いのか、あまり考えなくて良いのかということも考えている。

## 山田委員

幅広くといっても、中学生から高齢者までいるので、ある程度の年代ごとに別々の項目のアンケートを配布した方が良いのではないかと。数をまとめてという問題ではなくて、その年代ごとにニーズとか認知とか違うので、年代ごとに何種類か作った方が意見も出やすくいいと思った。

## 池田座長

地域福祉だから、地域に住んでいる人が共に支え合う形をイメージするが、同じアンケートを中学生に行うのはどうかという野村委員の意見があったが、そのようなところから考えていけば年代別というか、中学生や高校生、大学生に分けることも一つの方法という感じもしなくもない。中学生は、高校生はこう考えていますという形で持っていければいいかなとみんなの話を聞いていて思うが。

## 大橋委員

そう思う。全部足してこれが一番多かったですねという話ではない気がする。各年代で、こう思っているということがそれぞれ出てきてそれぞれどう解決していくかという話だと思う。

## 池田座長

そこで課題が出てきたとしたら、それをどうしていきたいのかという形。年代別の課題というものが出てくると思う。

「我が事、丸ごと」、あれは昔から話されていることで今さら何を言っているという感じ。地域福祉の先生たちはみんな思っている今更何を言っているのかと。さて、どのように纏めていくか。年代別か層で纏めていくか。齋藤委員。

## 齋藤委員

最終的には、「そのような意見がここで出たので、その意見を踏まえて策定委員会でご検討ください。」という投げかけになるので、実際の策定委員会ではここの意見もあるけど、色々他の意見もあるでしょうから。何とも言い難いが出来る事であれば単純に数量的に多数決にならないような形で函館市の各年代層や属性の各層における地域福祉の中心的な課題が一つでも浮かび上がってくるようなものに仕上がっていくと、これまでの計画よりは取り組みやすいし評価もしやすいのではないかと考えて聞いていた。

## 池田座長

私もそう思う。高校生なら高校生が感じていることがあるわけですよ。そういったことを取り上げながらやっていけばいいのかな。そして、全体的に函館市はどうあるべきなのかそういった方向性が一番いいのかなという感じがする。ガイドラインに沿いながら。

ガイドラインの文書は難しいから、それを全部具体化しながら大橋委員の質問事項みたいな感じで纏めていって中学生に対する質問事項も違ってくるだろうし。そのように纏めてくれればいいのかなという感じはする。

## 野村委員

そのような方向は政策化していくうえではより効果的ではないかと思う。

アンケートの項目については、分野ごと、年代ごとの他に、仮に一般市民に広く地域課題を問うということをするならば、大橋委員から提起されたとおりに、1から16の全てということは無理だと思うが、何らかの形で主として具体的な政策課題として取り組んでいるものもいくつかあると思う。私の限られた知識だが大橋委員のご指摘のとおり、4については生活困窮者自立支援の窓口ができていて、7については若者サポートステーションがあり、9も市民後見センターができたり、高齢者・児童虐待についても要保護児童対策地域協議会を含めて様々な取り組み、最近では正規外の母子救済の組織もできたようだし、自殺については自殺予防対策に取り組まれている、まさに制度の狭間にある16の全てとは言わないが、このうち何項目かピックアップして、どの程度市民の間で認知されているのか、ということ調査対象に入れてもらえると制度の谷間が浮かび上がっていくのかと思う。

アンケートを作るのは大変だと思うが、16の全てではなくても何項目か入れてもらい、具体的な形での質問をお願いしたいと思っている。

アンケートとはちょっとずれるが、いろんな声の集約の仕方の一つに子ども教育のことで言うと、子ども条例が制定されて子ども会議をやっている。例えば、子ども会議に地域課題を検討課題として投げかけ、会議の中で議論してもらおうということも子どもの今の状況を把握する方法、子ども未来部との連携調整が必要だと思うがこのようなことの考えてもいいのではないかという感じがする。

一度、地域づくりをテーマにした子ども会議を傍聴したが、子供たちが積極的な意見を述べている。非常に活用しがいのある取り組みだと実感したので、参考までに。

#### 池田座長

縦割りではなくて、壁を取り払ってお互いに連携し合っていくことも大事な。成年後見制度はどこかでやっているのでは。統計とかとっているのと思うが。

#### 事務局（和久井課長）

成年後見センターを立ち上げ市の委託を受けて社協がやっている。統計的なものももちろんある。

#### 池田座長

そういったものをお互いに活用しながらやっていけばいい。どうだろうか今のような方向性で。いい方向が見えてきたのかなという感じがするが。

#### 事務局（和久井課長）

今日の意見は持ち帰り事務局として整理させていただくが、そのうえで取り込める部分は取り込んで最初にお話ししたとおり、対応が難しい部分については並列でこのような意見がありましたということで策定委員会に提示させてもらう。

#### 池田座長

今のまとめでいいですか、大橋委員。

#### 大橋委員

言ってもらえれば手助けできると思う。

#### 池田座長

今の方向性で纏めてもらうということでもいいか。他に全体として何か意見あるか。

#### 山田委員

この前、日吉のことについて中間報告を受けたが、その後ざっくりとした感じでどのように進行しているか。



## 事務局（和久井課長）

エリアの建物は予定どおり工事が進んでいる。この後順調にいくと2月中に検査を終えて完成するという状況になっている。それ以降は備品の搬入だとか、それぞれの施設の準備を整えて3月末にオープンできる予定となっている。

## 野村委員

今の話に関連して。いつもこの福祉コミュニティエリアのことで同じことばかりしか言わないが、介護人材の確保の問題が非常に大きな課題になってくるだろうということで、新聞でかなり大きく介護保険計画に伴う実態調査の記事が出ていて、所管課は違うと思うがこういった実態がこれから福祉コミュニティエリアの整備において具体的な課題になってくると思う。それぞれの担当部・課の間で情報を共有しながら、これに対する対応をどうやっていくのかということと一緒に連携しながら考えていくという方向で取り組んでいただければ大変ありがたいと思っている。

## 池田座長

福祉コミュニティエリアは違う会でも話し合っているが、180人くらいの介護人材が必要だがそこはやっていける。関連施設があるからそこから引っ張ってくればできるが、引っ張られた方が大変なことになるのでそこをまた補充していかなければならない。慢性的に足りない状態になっている。

これは福祉に対する風評が大きいと思う。福祉はみんな大事だと思っているしその仕事も大変だけれども大事な仕事だと親も思っている。じゃあ自分の娘がという時に首を傾げることになる。福祉は本当にやりがいがあるとか、地域福祉の観点とか色々な視点から市もPRしていかないと。

今一生懸命国が言い出しているが、市の方もPRしていき福祉人材を確保しないと。箱を作ったってソフトがないとハードばかりではダメだと思う。

他の法人でもミドルリーダーあたりが引き抜かれている。初めてやる場所、立ち上げではミドルリーダーが必要になる。介護人材の方は掃除のパートタイム、洗濯のパートタイム、いくつかのパートタイマーに分けて交代制でやっている。でも、ケアする人材は少なくなっている。

ロボットのこととか色々なことが出てくるが、人間が必要だということは確かなのでなんとかPRして増やしていかないとダメだと思う。

今いる人達もだんだん高齢化していく。2025年問題から2040年問題に入ってきているので何とか介護人材を育てないと。

どうやって人材を育てていくのか、野村委員が言ったように本当に深刻な問題だと思う。みんなでも何とか育てていかないと介護人材がいなくなってしまうし最後には老老介護になってしまう。

そういうことで、今日は皆さんのご協力でトントンと話しが進んでいい方向性が見えたのかなと思っているのもう一回この整理みたいな形で会議があるのか。

**事務局（和久井課長）**

この会議について今年度はこれで終わりとなる。次年度は日程が決まり次第ご案内させていただくが、今日いただいた意見は来年度の策定委員会の方は4月に入ったらすぐにと考えているので、そちらの方でまた引き続き整理させてもらいたいと思っている。

**池田座長**

出来たものは我々にも資料がもらえるのか。

**事務局（和久井課長）**

内容が固まり次第こういう形でやらせてもらいます。と示したいと考えている。

**池田座長**

理解した。今日は少し早いですがこれで終了としたい。ありがとうございました。